

令和 7 年度第 1 回川崎市食育推進会議部会（摘録）	
日時	令和 7 年 11 月 10 日（月）午後 2 時～ 3 時 20 分
会場	川崎市役所本庁舎 3 0 2 会議室
出席者	<p>＜委員＞佐野喜子委員、本所靖博委員、北村恵子委員、石渡宏之委員、笠原佐代子委員（オンライン出席）、田邊静江委員、萩原ひとみ委員、中山敏夫委員、小林直樹委員、杉中祐介委員、西尾大輔委員（オンライン出席）、水庭香菜委員、重友正美委員（オンライン出席）、稲野辺健一委員</p> <p>＜事務局＞健康福祉局保健医療政策部担当部長 林露子、健康福祉局地域包括ケア推進室地域保健担当課長補佐 田持淑子、市立看護大学公衆衛生看護学領域講師 遠藤雅幸、経済労働局都市農業振興センター農業振興課振興係長 大友美紗子、環境局生活環境部減量推進課減量推進係長 小宮智之、指導係長 金刺哲也、こども未来局保育・子育て推進部運営支援担当担当係長 吉島佳那子、教育委員会事務局健康給食推進室食育推進担当指導主事 山口賀子、小野澤園子、健康福祉局保健医療政策部健康増進課長 大西哲史、保健医療政策部担当課長 阪田敬子、健康増進課課長補佐 國米佑宇、担当係長 大坪和恵、担当係長 並河あゆみ、主任 北野葉子、健康増進課 谷草太、前田恵里、高岸悠太朗</p>
欠席者	＜委員＞小川町子委員
傍聴人	なし
1 開会	
事務局	当部会は川崎市審議会等の会議公開に関する条例に基づき公開する。
2 部会長の選出	
事務局	部会長を選出する。立候補または推薦はあるか。なければ事務局から佐野委員を推薦する。
委員一同	（了承）
事務局	佐野委員に部会長をお願いする。就任に当たり挨拶をお願いする。
佐野部会長	よろしくお願いします。
3 議事	
（１）自然と健康になれる食環境づくりについて	
佐野部会長	議事（１）について、事務局から願います。
事務局	<p>資料 2 及び別紙については、会議の事前アンケートとして委員の皆様には本市食育推進計画の施策の 1 つである「自然と健康になれる食環境づくり」を推進するために、今後本市が取り組むべきと考えられる取組案の中から特に重要と思われる項目を御選択いただき、更に該当項目について、「所属団体として協力が可能と思われる内容」や「他団体に対して期待すること等」の御意見を御提出いただいたものを取りまとめたものになる。</p> <p>資料 2 及び別紙の内容を参考に、今後本市が多様な主体と連携して、取り組むべき方向性（①～⑥）の中から優先的に取り組むべき事項、及びその具体的な取組について協議の上、決定をお願いする。</p>

佐野部会長	ただいまの議事について、意見や質問はあるか。
委員一同	(特になし)
佐野部会長	特になければ、多数決が最善という訳ではないが、皆様から少しずつ御意見をいただき、事務局案に沿って議論を進めていきたいと考えるが、その方向でよろしいか。
委員一同	(同意)
佐野部会長	<p>委員を対象とした事前アンケートをとりまとめたものによると、②の健康的な生活を実践するための仕組みづくり、次に、①調理食品、外食の栄養バランスの向上、そして⑤産学官の連携による食に関する課題を解決するアイデアの創出が上位となる。</p> <p>まず、皆様からの票が最も集まった②の健康的な生活を実践するための仕組みづくりについて、現実的に取組が可能かという視点も踏まえながら、検討したいと考える。</p> <p>別紙2枚目にある「アプリの活用、おすすめ朝食メニューの情報発信」、ライフさんのアプリ配信について、興味深く感じた。水庭委員、アプリ活用の想定について御説明をお願いできるか。</p>
水庭委員	<p>弊社の「ライフアプリ」については、ライフのクレジットカードの登録や、ポイントカードとしての機能、各種キャンペーンの掲載と、スーパーライフに関するお得な情報が載っているアプリになる。</p> <p>川崎市にある店舗を設定して、そのお店を使っているお客様に情報発信ができる。発信内容については検討が必要であるが、朝食メニューの提案や食育に関する情報発信が可能ではないかと考えたため、載せさせていただいた。</p>
佐野部会長	<p>ライフさんを経由して、アプリで、それを持っている方たちに色々な情報を発信することができるという御提案をいただいた。直結した発信になる。</p> <p>アプリを通じてどのような情報を発信できると思うか。また、②に関するその他の内容でもよいので御意見を願います。</p>
本所委員	公募委員に聞いてみるのはいかがか。
稲野辺委員	<p>所属している会社では従業員向けの歩数カウントによりポイントを付与する仕組みがある。ポイント付与は、多くの方が敏感に反応するところがあり、自分が頑張ったこと、もしくは食べるもの、食べたものに対してポイント制度を取り入れることによって市民の方が主体的に動いてもらうには即効性が期待できる、非常に便利なシステムと感じる。</p> <p>ただし、先ほどのライフ様の御意見でありました、企業単位のアプリを川崎市が採用するのではなく、市が、俯瞰的に全体市民向けに実施することが、川崎市の施策としては得策ではないかと考える。そこにオプションで、ライフ様を初め、多種多様なアプリの選択肢を設定すれば良い。ユーザーがカスタマイズすることにより、ポイントがダブルで付与される様な仕組みがあれば、市民の方も関心をもって進めていただけたら考える。</p>

	<p>また、インスタント食品やファストフード等を選択した食生活には、ポイントダウン、川崎市産の野菜、魚、肉等の素材選びの楽しさやバランス良く食べるメニューづくり等、川崎市推奨の食生活には、ポイントアップ等、メリハリのあるシステム導入が大切と考える。市民が継続的に愛用してもらえるアプリ開発により、健康な食環境が自ずと形成される事を望む。</p>
重友委員	<p>アプリによる情報発信については、メニュー配信も魅力的と感じるが、調理のハードルが高いと感じる方もいると考えるため、総菜等も含めた組合せの配信をいただけると一層よいと感じる。</p>
佐野部会長	<p>携帯電話は多くの人が常に所持し、閲覧しており、効果的に活用できれば有用であるとする。既に食育に取り組まれている団体の方からも御意見をお願いできるか。</p>
北村委員	<p>川崎市栄養士会としてはホームページを作っていないため、アプリの活用は難しい状況であるが、市民まつり等のイベントには参加しており、展示や資料配布、料理カードの配布等を行っている。</p> <p>また、上部組織である神奈川県栄養士会はホームページを持っており、季節の料理、簡単にできるメニューの提案や、フレイル予防の観点から「お総菜にちょい足しする」工夫を紹介する取組を進めている。</p> <p>防災に関しては、パッククッキングや高齢者向けのやわらか食の調理動画を作成している。</p> <p>今回のテーマは健康的な食事全般ということで対象が広いため、例えば朝食に適したメニューや、スーパーの総菜を選ぶ際のアドバイス等は可能と考える。</p>
佐野部会長	<p>催しに対しての内容の充実や、呼びかけの工夫について御提案をいただいている。民生委員の方からも御意見をお願いできるか。</p>
田邊委員	<p>高齢者もスマホを持っているが使いこなすまでの状況にはない。食事会などでは資料を見せると納得してやってみようと思うが、帰ると忘れてしまうという状況も見受けられる。</p> <p>区のお出かけマップの裏側にフレイル予防の定義や、運動、食事、口腔ケアのポイント等の記載があり、それをもって出かける方もいる。チラシをもらって一生懸命読まれる方もいるが、食事の重要性等を伝えるだけでなく、ポイント制度やおまけがあると、張り合いが出て継続につながるのではないかと考える。</p>
佐野部会長	<p>フレイル対策の三本柱に「社会参加」も含まれるため、催しに参加することでポイントがたまる仕組みは、フレイル予防につながると考える。</p> <p>食に関する取組だけでは、フレイルが進むこともあるため、食に絡めて、運動や社会参加等、多方面が連携して向上するような仕組みを、関係者と一緒に検討できればよいと感じた。他にいかがか。</p>
中山委員	<p>セレサ川崎では、食育というと、食農教育が主体であり、小学校での農業体験等を長年実施してきた。今年は国際協同組合年で、川崎信用金庫と連携し、新採用職員に田植え・稲刈り体験を行ったところ、7～8割が経験者であり、食農教育が若い世代に浸透していることを実感した。</p>

	<p>今回の「食育」は、食の大切さを育むという意味合いで、従来の食農教育とは少し異なる印象を受けた。若い世代は食農教育を受けているため、食に理解がある一方、その上の年齢層は食育への理解が乏しい。朝食の話題も出たが、主婦層、特にスーパー利用者を中心にターゲットを絞ることが有効と感じた。</p>
杉中委員	<p>アプリの活用について考えると、当社にもアプリがあるが、私は実際には利用していない。その理由として、①必要で有用な情報が得られるか分からないこと、②スマホ用アプリが多すぎて、どれを選んでも同じような情報しか得られないと感じていることが挙げられる。現状私が日常的に確認しているのは歩数程度にとどまっている。ただ、アプリを活用することで、自身の食事内容が健康維持に結びつくと分かれば、利用したいとも思っている。しかし、現在はアプリの数を含め情報が多すぎて選択に迷う状況であり、目的を明確にし、何を選べばよいか自分自身で気づく必要がある。</p> <p>人によって関心やアンテナは異なるため、複数のアプリや選択肢がある中で、自分に合ったものを正しく活用できることが望ましいと考える。</p>
佐野部会長	<p>日常的に複数のスーパーを利用しており、ライフも愛用しているが、東京に住んで20年近くになる中で、客層の変化を強く感じている。以前はオフィス街で肉売場も小規模だったが、現在は居住層の人口構成が変わり、時間帯や曜日によって客層が大きく異なる。ライフのように営業時間が長い店舗では、主婦層だけでなく、男性や高齢者、昼間に弁当を買う勤労層など、幅広い年代が利用している。川崎や東京のような都市部では、スーパーは全年代の利用者が集まる場であり、そこを糸口として情報発信の入口にすることも有効ではないかと感じた。</p> <p>また、外食店での取組やインセンティブ付与、ポイント制度の活用も検討できるのではないと思う。ポイントはアプリとも関連し、入口として展開できる可能性があるため、こうした仕組みを含めて意見交換を進めたい。</p>
小林委員	<p>フレイル対策や予防については、高齢になってから準備するのは難しく、40代、50代から意識し始めるものの、本来は20代、30代から取り組む必要がある。特に塩分摂取の問題は分かりにくく、味覚で体験しながら適量を理解できるプログラムが有効と考え、東京大学飯島先生と共同で開発した。これは、だしの活用等で味を楽しみながら減塩できることを体験できる内容で、地ケアフェアでデモを行った際には好評だった。現在、他自治体やUR団地のイベント、管理組合からの依頼で展開しており、謝礼をいただきながら実施するケースもある。スポーツクラブからも、会員向けプログラムへの導入相談が寄せられている。こうした取組は医療費や保険料の削減にもつながり、経済的効果も期待できるため、川崎市版としてターゲット層を調整しながら展開できれば役立つと考える。</p>
萩原委員	<p>各団体や企業が食育に向けて様々な発信や努力をされていることは、とても良いことだと思う。川崎市全体としてそうした取組をつなぐ仕組みをつくり、その中で「この部分は市のお墨付きです」というような明確な基準があると良いと考える。</p> <p>アプリについては、特定のお店をよく利用する人でないと、実際にインストールす</p>

	<p>る人は少ないと思う。スマホを新しくしたときは容量に余裕があり、色々入れることもあるが、結局どれを残すかということになり、頻繁に使うものだけが残るので、特定店舗向けのアプリは利用範囲が限られると感じる。ゆえに、川崎市としての仕組みがあり、市のホームページ等からアクセスできて、そこに食育の取組がつながっている方が良いと考える。もちろんかわさきTEKTEKなど既存サービスと連動するポイント制度があれば、更に良い。</p> <p>飲食店については、例えば、「川崎市食育おすすめメニュー」というようなものを設定し、その基準が決まれば、協力したい店舗は自主的に参加すると思う。強制はできないが、参加への呼びかけは可能だと思う。</p>
石渡委員	<p>宇野千代さんの本に、季節の移ろいについて食を通じて楽しむ姿があり、とても素敵だと感じている。幼稚園でも子どもたちに食べ物の話をするときは、その時期ごとに「もうすぐあれが食べられるね」という話をしたり、「この間掘ってきたあれをそろそろ食べようか」というように、子どもたちが食べたいと思う段取りを意識し、子どもの身の丈に合わせて食に興味や関心を持たせたいという思いがある。</p> <p>一方で、この会でもよく話題になるが朝食欠食についての課題がある。幼稚園ではまだ声が届くが、小学校、中学校、高校と進むにつれて、朝食を食べない子どもの割合は増えていくように感じる。朝食の大切さを伝える際には、欠食によるマイナス面をしっかりと伝えることが重要だと思う。例えば、脳に栄養が行かないと集中力が下がり、いらいらする。参考資料にもあるように、朝食の重要性への意識は低下してきている。だからこそ、朝食が大切だということをしっかりと伝えていく必要がある。</p> <p>ただ、そういう人が増えても社会は回っているという現実を見ると、どうなのだろうと思うこともある。昔は1日2食だった時代もあったが、そこは科学的にきちんと見ていく必要があると感じる。まずは、みんなに朝ごはんを食べてほしいと思う。</p>
笠原委員	<p>食育の取組を進めるにあたって、ターゲットを絞って実施するのか、それとも広く展開するのかという点が気になる。</p> <p>また、まずは自分たちの食事で何が足りないのかを知る必要があると思う。今、自分が摂っている食事の栄養素がどれくらいかが分からなければ、何を補えばよいのか判断できない。例えば、子どもが好きなハンバーグなら、この大きさでたんぱく質はどれくらい、という情報が分かるとよいと思う。年齢によって必要な摂取カロリーやたんぱく質、野菜の量も異なるので、そうした情報を分かりやすく提示し、自分の食事を振り返る機会がないと改善にはつながらないと感じる。看護師である私も、必要カロリーは分かるが、他の栄養素についてははっきり記憶していない。そういう意味では、栄養情報を提示する仕組みが必要だと考える。更に、食材を購入する際に「この食材ならこれくらい摂れる」というPOPや掲示があれば、買い物時に意識するきっかけになるのではないかと感じた。</p>
佐野部会長	ターゲット設定と教育の必要性についての御意見について、お礼申し上げます。
西尾委員	議論の中で、アプリの活用について意見があったが、現在、私どもでもお客様向けに案内はしているが、ライフ様のような形での展開は難しいと感じている。ただ、ス

	<p>スマートフォンは圧倒的に手に取る率が高く、広報媒体として有効であるため、市としてアプリの活用を検討する価値があると考ええる。</p> <p>また、朝食欠食の問題は前回の食育推進会議から議論されており、部局内でも話合った結果、これは社会的な課題であり、子どもだけでなく親世代も学ぶ機会をつくることが重要だと考える。取引先の企業には、欠食に関するエビデンスを持つメーカーもあるため、官民連携で取り組める可能性があると思う。</p> <p>弊協で実施したお客様アンケートでは、健康に関する不安の上位は、①野菜摂取不足、②栄養バランスへの懸念、③塩分過多の心配という結果であった。現在、この3つのキーワードをテーマにした学習会や取組を進めている。</p> <p>加えて、横浜のケアプラザでのケアマネージャー向け講習会に参加する機会があったが、栄養士による総菜の組合せによる栄養バランス改善に関する内容で、健康を考えるきっかけとして有効ではないかと印象に残ったため紹介する。</p>
本所委員	<p>取組の着地点を明確にするために、素材提供ができたらと考える。</p> <p>多様な主体と連携した具体的な取組等の内、上位3位にあたる①調理食品、外食の栄養バランスの向上と②健康的な生活を実践するための仕組みづくりについては、「何をやるか」、⑤産学官の連携による食に関する課題を解決するアイデアの創出については、「誰とやるか」であり、「何をやるか」を決めて、その上で「誰とやるか」を検討することになる。</p> <p>検討シートにはアプリやインセンティブなど、楽しみながら取り組める要素が挙がっており、課題は障壁をどう乗り越えるかであり、アプリは手段であると考ええる。</p> <p>朝食を欠食する理由の1つにあげられるライフスタイルの変化については、修正が困難であり、改善には幼少期からの教育が重要になる。特に高校生以降は受験勉強が偏重されることもあり、最近、食品メーカーも高校生、大学生、社会人の若い人向けの大人の食育に力を入れている。</p> <p>朝、食欲がない人に無理やり食べさせることもできず、外食が増えている等の現状があるのであれば、根本的なものを直すことと、現状を前提とした取組が必要と考える。その際、インセンティブとしてアプリやポイントを活用することが有効で、ターゲットについては、働く世代や高校生や大学生とすると多くの方が対象になる。</p> <p>アプリについては、かわさきTEKTEKなど既存アプリの活用や、企業連携に取り組むのであれば、どこかのスーパーのアプリのダウンロードを啓発することになるが、それらのデータを共通してシェアすることが難しいと思う。</p> <p>昨日は食鮮まつりで健康増進課と連携して血管年齢測定とベジチェック®行ったが、お祭りのジャンク系のご飯の後に測りたそうに来られる方や、両親の測定結果を子どもが心配するような姿も見られた。何かインセンティブになるものを具体的に議論されるとよいと感じる。</p>
佐野委員	<p>ターゲットや教育のあり方について意見が出されたところだが、日本の平均寿命が延びたのは戦後からであり、ライフスタイルの変化や欠食の問題は複雑化している。昔は1日2食で平均寿命は44歳だったが、現在は80～90歳まで元気に生きる</p>

	<p>時代となり、セルフケアの重要性が増している。そのため、食育や特定健診・特定保健指導等の保健事業に国が取り組んでできていると考える。</p> <p>優先的に取り組むべき事項を1点に絞るとするのは難しいこともある。また、実現の可能性等も考慮すると絞り込まれる可能性もあるため、今日は教育や購買に近い立場等、様々な立場にいらっしゃる委員の皆様から、情報提供や教育、購買行動の工夫など多様なアイデアの提供をお願いする。</p> <p>欠食については、子どもだけではなく若年の女性、働き盛り世代にも共通する課題であり、メタボやフレイル予防等、個別対応が求められる時代だが、共通して言えることは、「食べないと生きていられない」というところであるため、食を選択する力を、ぜひ食育を通して発信していきたいと考える。</p> <p>続いて、②に次いで票が集まった①調理食品、外食の栄養バランスの向上について御意見を願います。こちらの取組については、外食店だけではなく、スーパーやコンビニも含めた一体的な取組が可能ではないかと考える。また、川崎市には学生もいることから、食に関心のある学生も多いと思われるため、周知にはその力を活用できる可能性がある。食品衛生協会をはじめ、スーパー側の意見を願うことができるか。</p>
萩原委員	<p>先ほども申し上げたが、市として、例えば、1日の野菜摂取目標量の3分の1以上が確保できることや、塩分量等の基準を設定し、それを満たしたメニューにアイコンを付与する仕組みを定めれば、それを飲食店が取り入れることは可能だと考える。日常は栄養バランスに気を付けているものの、レストランに行ったときぐらいは、本当に美味しいものを食べたいというのが普通だが、頻繁にランチを外食する方も一定数いることから、アイコンがあれば、市民が外食時に参考にでき、市全体で健康意識を高めるきっかけになると思う。</p> <p>駅周辺で朝食を提供している飲食店の情報については、子どもの朝食欠食とはあまり関係がなく、検索サイトを通して自分の自宅と勤務場所の間で探してもらえらるため、食品衛生協会として、朝食提供を行っている店舗を載せましょうというのは、ちょっと違う気がしなくもない。</p>
西尾委員	<p>先ほどの繰り返しになるが、半年ほど前、横浜市のケアプラザでケアマネージャー向け講習会に参加した。講習では、総菜の組合せによって栄養バランスを改善できる方法を栄養士が分かりやすく説明しており、例えば「このお浸しとこの和え物を一緒に食べると植物性たんぱく質が摂れる」といった具体的な提案があった。私どもの店舗でも総菜を多く取り扱っており、コンビニでも総菜は身近な存在であるため、こうした工夫は現実的であり、このような講習は食生活を見直すきっかけになる。川崎でも同様の取組を広げることで、健康意識の向上に貢献できると考える。既に連携しているという取組も沢山あると思うが、新たな主体同士の取組が広げられるとよいと考える。</p>
佐野部会長	<p>ケアマネージャーは、高齢者と直接お会いする機会も多く、課題も把握されているため、そういう方から情報発信をしていただけるというのも有効と考える。</p>
水庭委員	<p>別紙にも記載させていただいたが、ライフとして、市内の複数店舗で幅広く実施で</p>

	<p>きる点を踏まえ、不足しがちな野菜を手軽に摂取できるよう、総菜売り場でサラダや炒め物等の野菜総菜の追加購入を促すPOPを設置できたらと考える。</p> <p>また、全ての店舗ではないが、キューピーと行政が共同した企画として、野菜を使ったレシピを野菜売り場やドレッシング売場に置く取組がある。最近では、府中市で実施している。</p>
佐野部会長	<p>具体的にイメージができる取組にお礼申し上げる。</p> <p>皆様から優先順位付け上位2位までの取組について御意見を伺った。追加の御意見等があれば願います。</p>
委員一同	(特になし)
佐野部会長	<p>皆様の活発な御意見にお礼申し上げます。本所委員からの御発言にもあったが「どことやるか」という点に話を進めると⑤産学官の連携による食に関する課題を解決するアイデアの創出も関連してくるかもしれない。</p> <p>実施を検討する取組についてもほぼ出して頂いた。付け足しがなければ、今年度優先的に取り組むべき事項について決めていきたい。①～⑥については、どれも重要であるため、優先順位はつけ難いところであるが、②を推進するにあたって何かを一緒に考えていくということも方法論として、でてくる可能性があるとお話を伺っていて思ったところである。</p> <p>別紙に御提案いただきました取組や、本日新たにいただいた御意見については、どれもその実現について検討を深めていきたいと思うところではあるが、全てというも難しい状況があるため、今年度についてはやはり、委員の皆様が重要と感じている②健康な生活を実践するための仕組みづくりについて、取り組む形で集約と考えるのがいいか。①については、②に付随して展開していけるように思った。</p>
委員一同	(同意)
佐野部会長	<p>各取組については、事務局で、実現の可能性も踏まえて、具体案をまとめていただきたい。その案をもって、次回の部会で更に実践的な検討ができたらと考える。</p> <p>議事が終了いたしましたので、進行を事務局にお戻しする。</p>
事務局	佐野部会長、円滑な議事進行についてお礼を申し上げます。
4 その他	
事務局	その他について、委員の皆様から、何かあるか。
委員一同	(特になし)
事務局	次回は年明け2月頃を予定しているため、事務局から改めて案内する。
5 閉会	